

ドイツ旅行

2014年の報告と2015年の予定

公益財団法人日独協会主催の今年のドイツ旅行（5月18日出発、6月6日帰国）には、当協会織田会長と数名の会員とその友人の皆さんが参加されました。皆さん有意義な楽しい旅行をされた様です。団長を務められた日独協会黒川理事の報告の一部と、参加された当協会会員山崎正のご寄稿（3ページ）を掲載致しております。

なお、2015年の計画が現在進められています。日独協会総会はベルリンで5月15～16日開催の予定でその前後をドイツ国内旅行をする計画です。ベルリンあるいはドレスデンにはオペラハウス、コンサートホールが多く、音楽を主体としたプログラムが組まれることになりそうです。詳細が判明次第お知らせ致します。

日独協会連合会総会参加旅行より帰国して

公益財団法人日独協会理事 黒川 剛 氏

5月30日、31日の両日デュッセルドルフで開催された創立50周年記念をも兼ねる会合へ参加を主たる目的として、個人参加・現地参加を含める25名よりなる旅行団の一員として独した所感。

公式行事には市議会議事堂が二日間供与され、「独日友好の夕」及び開会行事に州閣僚、独日議員連盟会長、州経済次官、市長、在独日本大使の出席を得た事は、同州における日本コミュニティの重みを物語るものと評価に値する。

また、駐独中根大使が現地総領事公邸に総会参加者全員を招いたことは、民間レベルでの日独交流を日本政府が重視していることを顕示したものと感謝に値する。

開会式に続く総会会議では「独日パートナーシップの可能性」をテーマとするパネルディスカッションとそれを受けての「文化・学術」「政治・経済」「青年と未来」の三グループに分かれての討論が行われた。

非公式行事での、下町での夕食会、船によるライン下り、高級レストランでのお別れ夕食会等の日独協会の献身的な準備にたいして敬意と感謝を捧げたい。

顔の広い織田理事（当協会会長）が気配りを欠かさず全員を東ねて下さったこと、また添乗員としてきめ細かく世話を見て下さった東日観光阿部職員（当協会会員）に深く感謝したい。

（文責：編集者）

湘南日独協会の活動予定

■ Singen wir zusammen!歌で楽しむドイツ語 第21回 「Marsch/Soldatenlieder- 元気の出る、勇壮な曲」

日時 7月20日（日） 15:00～16:30

会場 藤沢商工会館 507号会議室

会費 1,000円

■ Schwatzerei am Stammtisch 第2回

日時 7月24日（木） 15:00～17:00

テーマ「Freizeit - 休暇」

会場 藤沢商工会議所 507号会議室

会費 1,000円

申込 木原 Tel 0466-28-9150

先着順

■ 7月例会 講演会

「ドイツの劇場と日本のオペラ事情」

講師 梶井 龍太郎氏 会員

元ドイツメクレンブルク州立劇場専属テノール

歌手 東海大学教授 二期会オペラ研修所講師

日時 7月26日（土） 14:00～15:30

会場 江ノ電第2ビル7F 湘南アカデミア

会費 1,000円

終了後懇親会（別会費）を予定しております

■ Singen wir zusammen!歌で楽しむドイツ語 第22回

日時 9月21日（日） 15:00～16:30

■ Schwatzerei am Stammtisch 第3回

日時 9月26日（金） 15:00～17:00

■ 9月例会 恒例の湘南オクトーバーフェスト

日時 9月28日（日） 18:30～

日曜日につき開催時間は早くなる見込みです

会場 グランドホテル湘南（例年と同じ）

詳細は次号でお知らせ致しますので皆様の予定表へ書き込んで置いて下さい。

< 4 ページへ続きます >

新入会紹介

敬称略

中島 敏

長谷川 宏有

5 月例会講演会

中村茂子氏の「リヒャルト・フォン・フォルクマン＝レアンダー、19世紀ドイツ人外科医のメスとペン」に出席して

長倉 寛子



ご友人の長倉さん

中村茂子さんの幼い頃からの愛読書であるレアンダーの童話集「ふしぎなオルガン」のことは寡聞にして知らなかった。中村さんが大人になってからも繰り返し読み返されるほど心惹かれたのか、と興味深くお話を伺った。

中村さんがドイツ語を学ばれるきっかけとなったのが、ドイツ語で書かれたこのレアンダーについての評伝である。彼女が慶應義塾大学通信教育課程の卒論のテーマにレアンダーを選んだところ、指導教官の斎藤太郎教授が参考文献としてハレ在住作家シ

モーネ・トリーダーさんが書いた伝記を紹介して下さいました。最初は独学で、その後湘南日独協会のドイツ語講座に参加して学習を進め、このドイツ語の伝記を読破したそうである。内容に興味を覚えた中村さんは著者へ感想メールをドイツ語で送られた。すると、トリーダーさんからの返信があり、ドイツでの面会が実現したのだった。目標に向かって果敢にチャレンジするエネルギーが中村さんのどこから湧いてくるのか、日頃の穏やかなお姿からは想像も出来ないことだ。

トリーダーさんの案内によりレアンダー所縁の住居や記念碑、大学を巡り、中村さんはますますレアンダーの理解を深めたことだろう。中村さんによるレアンダーについての研究のおかげで私達もレアンダーを知ることになった。

フォルクマン＝レアンダーはドイツのハレ大学病院の整形外科医で、叔母に童話作家がいるものの文学をそれほど重んじない家庭に育った。1870年から1871年にわたる普仏戦争に軍医監として従軍中、フランスのバリ郊外にある立派なお城に駐屯した。その時故郷ハレの子どもたちに書き送ったものが原題「フランス炉辺の幻想」という童話集である。この中に日本語名「ふしぎなオルガン」を含めた22編が収められている。当時のミリオンセラーともいべき童話集で、有名なグリム童話と並ぶものであった。

フォルクマンにしてみれば全く私的な童話集だと思っていたものが、帰国してみると一冊の本にまとめられ広く世間に読まれていたとは意外なことだっただろう。その後統一ドイツの愛国的書物の一つとして兵士の携行本に選ばれたほどスタンダードな童話集と言えよう。この童話集は統一ドイツ誕生の高揚した気運の中であって、それを微塵も感じさせずに書かれている。人間の心の驕りや運命に従わざるを得ない姿を通して子供たちへキリスト教的教えを悟らせているのだろう。



講演会場



原本を手に講演する中村さん



湘南日独協会ドイツ語講座で中村さんを指導した松野副会長より講師紹介

フォルクマンは整形外科医としては防腐法に基づいた近代整形外科のもとを開いた。当時のドイツ皇帝はその功によりフォルクマンを世襲貴族にした。亡くなったあと、市民の要望でハレに記念碑が建てられた。中村さんがハレで見た記念碑である。

童話作家としてのレアンダー、整形外科としてのフォルクマン、この二面性をそれぞれ確立させていた姿が浮かび上がってきたのは、中村さんの努力の賜物だ。中村さんの講演なさる横でパソコンを駆使して資料を展開なさる御夫君の姿に彼女の研究をバックアップする温かい気持ちを感じた。



山崎正氏

ほとんど知られていないが、昭和32年から37年にかけて400名余の若い現役の日本人炭鉱マンが西ドイツの炭鉱へ派遣された。戦後復興期から高度成長期に入った西ドイツの炭鉱は労働力不足に悩んでいたが、これは出稼ぎでも炭鉱移民でもなく、日独政府間協定による3年期限の派遣事業であった。彼らが働いた現場や住処はどんな処であったのか。若い頃炭鉱に勤務した私には、彼らの足跡を辿ることは長年の夢であった。この度、日独協会のツアーに参加し、個人行動の許しを得たのでこれが実現した。

5月30日、片岡惇さん（独日協会ニーダーライン副会長）がホテルに迎えに来られた。日本語が堪能なファビアン・シュミット君（ルール大学東洋学科学学生）の運転で、高口さん（元三井鉱山社員、派遣第二陣）らが派遣されたゲルゼンキルヘンのコンゾリダチオン炭鉱群3/4/9鉱跡を訪れた。当時日産8,600トンの石炭を生産した大炭鉱。昭和33年から累計約100名の日本人が働いたという。今は公園と化し、巨大な4滑車式の立坑櫓が昔日の名残を留め、近くに、彼らが入り浸りだったという酒場「メトロポール」があった。当時は地ビールの銘柄「グリュックアウフ」の大きな文字が看板であった。緑が多い閑静な住宅街だが、当時は煤煙が空を覆い、街路樹もまばらな路面電車が通る炭鉱街だったという。



案内してくれたシュミット君と

次いで4キロ程南西の同炭鉱のオーバーシュアー立坑施設へ行った。古い立坑櫓が残っており、クラシックな巻き座建造物は博物館だが施設されていた。隣の1909年建造のレリーフを残すネオ・ルネサンス様式のレンガの建物は、高口さん達の最初の宿舎だった。彼らが到着した日に町の若い娘たちや子供たちが殺到して、サインをせがまれ、その夜、近くのピヤホールに入ったら、席に着くなりビールが3,4本運ばれて来て、遠くの席から「俺のおごりだ」と中年の男が合図したと言う。日本人を戦友と見た復員兵だったろう。往時の親日ぶりが想像出来る。

「行っても何も残っていないですよ」と北村さん（元宇部興産社員、派遣第一陣、再渡独で連絡員、グリュックアウフ会長）は言うが、私は、彼が働いたデュースブルク・ハンボルンのフリートリヒ・ティッセン2/5鉱へもぜひ行きたかった。6月4日北村さんの友人、檜山さん（元デュッセルドルフ日本人クラブ事務局長、同市在住）の案内でこの炭鉱跡を訪れた。ようやく場所を探し当て、金網をくぐって侵入したが、広い草むらの陰に石畳と舗装面を見ただけで、炭鉱の痕跡は皆無。ここに年間100万トンを出炭した炭鉱があつて、累計200名余の日本人が働いたという。炭層の傾斜は緩く、派遣された炭鉱の中で作業条件は最も良かったそう。日本人寮のあった付近は、大きなモスクがあつてトルコ人が目立つ境界であった。

もう一か所のカストロープ・ラウクセルの炭鉱（累計約140名の日本人が働いた）には行けなかったが、ボーフムの「ドイツ鉱山博物館」やエッセンの世界遺産「ツォルフェライン炭鉱業遺産群」を見学出来たので大いに満足した。

終わりに、この旅行計画に教示とガイドの手配までしていただいた高口さんと北村さん、さらに現地を案内して下さった片岡さん、檜山さん、シュミット君に、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。



現在は公園になっている



煤煙の町の様子「メトロポール」が左にある

<1 ページ 行事予定の続き>

■ 10月例会 講演会

「織田幹雄は世界人」

講師 織田正雄氏 会員 湘南日独協会会長

日時 10月26日(日) 14:00~15:30

会場 湘南アカデミア 7F

会費 1,000円

講演会終了後懇親会(別会費)を予定しております

■ 11月例会 ワイマール独日協会歓迎会

日時 11月18日 18:00~

会場 クリスタルホテル(藤沢)

詳細は次号でお知らせ致します

なお、ワイマールの皆さんは17日藤沢に着かれ、宿泊はクリスタルホテルです。対応について詳細を詰めておりますが、概略次の様になる予定です。皆様のご協力ご支援をお願いします。

17日 出迎え

夕、居酒屋での交流会

18日 鎌倉市長訪問

浄智寺での、お香、お茶、流鏑馬(装束等)

日本文化の紹介体験

夕、歓迎会と交流会

19日 東京へ立つ一行の見送り

■ 12月望年会

詳細はこれからです。皆様のご意見・アイデアなどお聞かせ下さい。

お知らせ

織田正雄湘南日独協会会長が藤沢市の市民大学の講師として講演致します。お時間のある方はどうぞご参加下さい。普段聞けないようなお話が聞けそうです。

藤沢善行雑学大学講座

「日本にあまり知られていないドイツ」

講師 織田正雄氏

日時 7月20日(日) 14:00

会場 藤沢市善行市民センター

善行駅下車徒歩5分

会費 500円

(前号での400円は誤りでした)

第一回 Schwatzerei am Stammtisch (SAS)

湘南日独協会の新しい活動シュヴァツェライ・アム・シュタムティッシュ(SAS) 第一回が6月12日藤沢商工会館(ミナパーク)で開催されました。

既に前号でお知らせした通り、事前に設定されたテーマについて、ドイツ人を交え、肩のこらない雰囲気でお喋りする事を通じ、日本人・ドイツ人が、お互いの考え方、ものの見方を知り、理解を深めようとする試みです。

今回のテーマは「Familie(家族)」。参加者は、日本在住ドイツ人女性(3名)を含め、日独国際結婚(こんな言葉自体、アナクロですが)されている方がかなり居られましたので、日常の現実的な話もあり、楽しく且つ盛り上がった会話となりました。

特に、司会役・松野副会長が日本の伝統的な四文字熟語(夫唱婦随、良妻賢母、悪婦破家など)を説明され、それが話の切っ掛けとなり、殆ど全員が初対面ながら、スムーズに会話に入れたと思います。

少子化、晩婚化、高齢化社会、年金、介護、離婚、結婚観の変化、同性婚と、話題は留まるところを知らず、お喋りというには相当熱のこもった議論となり、そのまま予定時間終了となってしまったのは、若干もったいない気もしましたが、場所を替えての居酒屋では、又より砕けた雰囲気でお話もでき、本来の目的に小さいながらも大きな一歩を踏み出せたのだと思います。(木原健次郎)



居酒屋での和やかなおしゃべりが続きました

編集後記

当協会の毎月の催し物は、Stammtischが始まり、例会、歌で楽しむドイツ語(SWZ)と合わせて三回になりました。ドイツ語講座、合唱団アムゼルも年々参加者が増えています。

会員の皆様には、ご友人そしてお知り合いの方々は是非お誘い頂きより充実した楽しい湘南日独協会にしたいものです。

9月には恒例の湘南オクトーバーフェストです！この機会に仲間を増やしましょう！(大久保)